

テーマ:

「凜々子」と仲よし！ 心も体も豊かに成長しよう！

新潟県
社会福祉法人 浄英会
恵和保育園分園
恵和めぐみキッズランド
田村先生 大島先生 小野塚先生
給食部 高野さん 吉田さん



この活動の特徴



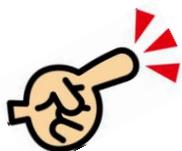
「凜々子」活用のポイント①

堆肥づくりから取り組み、
自然のサイクルを体感した

「凜々子」活用のポイント②

畑と鉢植えの両方で「凜々子」を栽培し、
園児たちの反応などを比べた

活動のねらい



- 一人1本の苗を育てることで、「凜々子」を大切に育てる心と思いやりや感謝の心を育む
- 調理する楽しさやおいしさを実感する

活動の概要と流れ

対象学年： 以上児3・4・5歳児（95名）
実践期間： 4～9月

時期	学習活動
4月	畑の土づくりをスタート。昨年育て終わった葉や茎、落ち葉などでつくった堆肥を畑に入れる 定植、観察開始
5月	芽かきをし、わき芽を育てる
6月	「凜々子」が赤く色づきはじめる。初収穫 収穫した「凜々子」を園庭に並べ、皆で収穫数を数える
7月	園で育てている他の野菜と「凜々子」の花と実を比べる
8月	「『凜々子』のトマトソースがけコロッケ」をみんなで作る
9月	青い「凜々子」でジャムをつくる
10月	畑の片付けをする。抜き取った「凜々子」を堆肥場に入れて土にかえす



ここがポイント！ 取組の工夫と実践の成果

一人1本の「凜々子」の苗を育てた

園の畑を「農園めぐみファーム」と名付け、「凜々子」以外にもナスやピーマン、キュウリなどさまざまな野菜を育てた。今年は96本とたくさんの「凜々子」の苗が届いたので、「農園めぐみファーム」で育てるのはもちろん、鉢植えで一人1本の苗を育てることにした。3、4、5歳児の計36名で鉢植えでの「凜々子」栽培にチャレンジ。自分の名前が書いてあるプレートを支柱につけ、栽培活動がスタートした。

一人1本の苗を育てることにより、自分の「凜々子」という責任感が生まれ、毎日水やりなどの世話をかかさずに行っていた。「凜々子」の世話をすることが楽しみに登園してくる子どももいた。また昨年栽培活動をしている子どもたちが、「お尻が病気にならないように気をつけなさい！」と、昨年の栽培活動から学んだことを3歳児に教えてあげる場面もあった。

実がつきはじめると、友だちと数を比べたり、「大きくなあれ！」「赤くなあれ！」と毎日声をかけたりと大盛り上がりだった。

「心も体も豊かに成長しよう！」という活動テーマのように、「凜々子」の生長とともに子どもたちの成長も感じる事ができた。

「凜々子」やその他の野菜の給食の残食が減った

トマトは酸味や香り、また種のゼリー状の食感などが理由で、子どもが苦手とする野菜の一つだ。けれど「自分たちが育てた野菜だから食べてくれるだろう」と考えていたが、食べられずに残す子どもが多く、どうしたら良いのだろうと考えていた。

しかし、繰り返し「凜々子」を使用した料理メニューを出したり、みんなで「凜々子」を調理したりしているうちに残食がゼロになり、「農園めぐみファーム」で育てている他の野菜の残食もなくなった。

また畑の片づけをした時、青い「凜々子」の実を収穫し、最後の1つまで大事に食べたいという子どもたちの思いから、青い実を給食室へ持って行った。その青い実でジャムを作ってもらい、カナッペにしてみんなで食べた。

子どもたちは「凜々子」の栽培活動を通して、自分たちが手間をかけ、苦労して育てたということから「食べ物への愛情」が生まれ、「食べ物へ感謝する」ということを学んでくれたようだ。



先生から一言！ 実践を通して

昨年に引き続き、2回目の「凜々子」の栽培活動。昨年よりもよりよい活動になればと、一人1本の苗を植えました。自分の「凜々子」という責任感が生まれ、子どもたちはより一層愛情を持って栽培活動に取り組んでくれました。

また、近隣の方が畑について教えに来てくれ、地域との交流も生まれました。

堆肥場を作ったことで、収穫が終わった「凜々子」の苗はまた来年「凜々子」を育てるための土にかえるという、「命のサイクル」を教えることができました。堆肥場に入れた「凜々子」が、また来年おいしい「凜々子」の実をつけてくれることを子どもたちも楽しみにしています。



受賞理由

「凜々子」のための土づくりから畑の片づけまでの「命のサイクル」や、一人1本の苗の栽培を通し、食べ物への感謝が培われた事例です。栽培の課程で丁寧に観察し、子どもたちの学びにさせていただきました。園で育てている他の野菜との比較や、「凜々子」での離乳食作りなど幅広い取り組みでした。